



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部 活動報告

発行人：支部長 板東 浩
きたじま田岡病院／徳島大学

★1 日本PC連合学会四国ブロック支部大会、準備中 (高知大会)

【大会長】高知大学医学部家庭医療学講座教授 阿波谷敏英

【大会事務局】高知医療センター地域医療科科长 澤田 努

前回のニュースレターでもお知らせしましたが、2013年10月19日(土)、20日(日)、高知市総合あんしんセンターにおいて四国支部ブロック大会を開催します。詳細は、facebook ページ <https://www.facebook.com/shikoku2013> をご覧ください。

今回の支部大会に合わせて、2つの新しい取り組みを予定しています。

1つは、学生・研修医を対象とした臨床推論ケースカンファレンス(10月19日午後1時～午後1時40分)です。『総合診療医ドクターG』のような臨床推論セッションを行います。ケースプレゼンターは佐野良仁先生(佐野内科リハビリテーションクリニック院長)です。四国4県の医学生・研修医に参加を呼びかけています。後期研修医・指導医クラスの先生方の臨席、セッション後のアドバイスをお願いします。

もう1つは、学会認定後期研修プログラムの後期研修医のポートフォリオ発表会(10月20日午前8時30分～9時30分)です。四国ブロック支部には10の後期研修プログラムがありますが、今まで支部単位の交流はありませんでした。後期研修医、指導医の皆さんの参加をお待ちしています。これを機会に四国内の相互交流をおこない、プログラムの質向上に努めたいと思います。

第14回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会/第20回四国地域医学研究会 合同集会
後期研修医ポートフォリオ発表会

| | | |
|-----|-----------------------------|--------------------|
| 日時 | 2013年10月20日(日)午前8時30分～9時30分 | |
| 場所 | 高知市総合あんしんセンター3階 大会講室 | |
| 発表者 | 千崎 健佑 先生 (久万高原町立病院) | 山本 美奈子 先生 (愛媛生協病院) |
| 進行 | 原 穂高 先生 (愛媛生協病院) | |

◆四国の家庭医療専門後期研修プログラムの相互交流の機会として、今回、初めて実施されます
◆多くの後期研修医、指導医の先生方の参加をお待ちしております
◆もちろん、一般の先生方の参加も大歓迎です

<https://www.facebook.com/shikoku2013/info>

★2 「第37回徳島県国保診療施設地域医療学会」のご紹介

海陽町栄喰診療所 白川 光雄

プライマリ・ケア連合学会に所属されている先生方には、国保診療施設に以前もしくは現在ご勤務されている先生方が多くいらっしゃいます。四国各県でも国保診療施設地域医療学会が開かれており、国保診療施設関係者が参集して地域医療及び地域包括医療・ケアの実践の方途を探求することを目的とするこの学会では、地域のプライマリ・ケアに携わっている先生方とも共通した話題について毎年討議されます。今年、徳島県でも第37回徳島県国保診療施設地域医療学会が、25年10月27日県国保会館(徳島市川内町)で、メインテーマを「ぬくもりあふれる地域医療をめざして」、サブテーマを「地域で 安心して いききる」として開催されます。

毎回、プライマリ・ケア連合学会でも活躍されている先生方に講演などを依頼いたしますが、特別講演に2013年四国ブロック支部大会長の高知大家庭医療学教授 阿波谷敏英先生やパネルディスカッション助言者として阿波谷先生と県国保顧問の徳島大総合診療学教授 谷 憲治先生をお願いしております。

国保診療施設関係者のみならず、関係団体職員の参加も可ということでもありますので、ご興味のある方は事務局（徳島県国保連合会事業課 電話 088-666-0112）まで、ご連絡ください。

また、今学会の討議内容などについても、後日このニュースレターで報告させて頂こうと思います。

<「第37回徳島県国保診療施設地域医療学会」開催案内>

1 日時

平成25年10月27日（日）

午前9時30分～

2 会場

学会会場 徳島県国保会館
徳島市川内町平石若松 78-1
電話 088-666-0112

情報交換会 ホテル千秋閣
徳島市幸町3丁目55
電話 088-622-9121

3 学会テーマ

メインテーマ

「ぬくもりあふれる地域医療をめざして」

サブテーマ

「地域で 安心して暮らし 生ききる」

4 特別講演

演題 「地域とともに育てる地域医療
—高知県の地域医療の担い手の養成—」

講師 高知大学医学部家庭医療学講座 教授 阿波谷 敏英先生



昨年の徳島県国保診療施設地域医療学会より

★3 愛媛県の最近の話題：

愛媛研究会 川本龍一

2013年4月27日（土）には第1回多職種連携ワークショップを松山コミュニティセンターにて開催しました。ワークショップでは医学部4年生の上本明日香さんの素晴らしい司会により、医学生（愛媛県のみならず近隣の大学を含む）、医師、十全総合病院のリハビリテーション部の職員、松山大学薬学部の学生さんと一緒に、各職種の役割を学びながら高齢者の介護プランの作成を実践しました。特別講演の中村伸一先生のお話では、先生の名田庄診療所での活動を具体的な事例を交えて紹介していただき、地域をケアする熱い想いを共感しました。

平成25年6月1日（土）～2日（日）にはEBMワークショップ in 愛媛を愛媛大学医学部地域医療支援センターにて開催しました。講師には東京北社会保険病院総合診療科の南郷栄秀先生をお迎えして、医学生、研修医、薬学学生が参加し、日々の臨床の中でいかに適切にEBMを使いこなすかについて学びました。

2013年7月20日（土）には第13回愛媛プライマリ・ケア研究会をリジュール松山にて開催しました。一般演題では予防、臨床、教育、患者指導などプライマリ・ケアにふさわしい7題の発表があり、特別講演では、帝京大学ちば総合医療センター地域医療学教授の井上和男先生より高知県山間のへき地診療所での勤務経験から、それを基にした教育（時間の共有）と日々の仕事から生まれてくる疑問や仮説を基にした研究活動についての熱い講演がありました。



中村伸一先生との懇親会

★4 香川PC研究会から：

陶病院 大原昌樹

香川プライマリ・ケア研究会は従来、研究会を定期的に開催してきております。来年の2月に、稲川先生をお招きして下記のように研究会を開催しますので、ご参加ください。

＜平成25年度「香川プライマリ・ケア研究会」開催案内＞

日時：平成26年2月11日（火・祝） 13：00～16：30

会場：JR ホテルクレメント高松

特別講演：稲川利光先生（NTT 東日本関東病院リハビリテーション科部長）

一般演題：研究会参加13職能団体の推薦演題とともに、公募演題も受け付けます。

問合せ先：香川県医師会（電話087-823-0155、担当：長尾）（陶病院 大原昌樹）

★5 「地医輝連」阿波踊り2013

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合診療医学分野教授 谷憲治

徳島大学医学生サークル「地域医療研究会」は、地域医療と総合診療を学べる機会を学生自身の手で作ろうと6年前に徳島大学医学部に結成されたサークルです。平成25年8月現在の部員数は144名であり、地域医療機関での実習や研究会への参加や開催などの活動を定期的に行っております。

阿波踊り連「地医輝連」はそのサークルメンバーと徳島大学総合診療医学分野のスタッフによって4年前に結成された合同連であり、今年も8月14日に総勢48名の大人数で藍場浜と市役所前演舞場を元気に踊り抜きました。途中では輪踊りを楽しんだり、蜂須賀連の演舞を鑑賞させてもらったり、徳島の熱い一夜を堪能することができました。

3年前からは徳島県出身の自治医科大学生も参加してくれており、将来地域医療の現場で出会うであろう両大学生が学生時代から親睦を深める良い機会になっています。彼らの掛け声「夢は地域の総合医、阿波の医療は任せとけ」「医療の谷間に灯をともせ」は今年も徳島市内のあちこちで大きく響き渡りました。

最後になりましたが、今年も、練習から本番までご指導いただいた蜂須賀連の岡本連長を始めとする連員の皆様、ご支援をいただきました地域医療施設の皆様に深く感謝いたします。

引き続き、来年もなにとぞよろしく願いいたします。

地域医療盛り上げたい

熱意 乱舞で表現

徳島大学「地医輝連」学生サークル

阿波踊り連「地医輝連」は、徳島大学の生サークル「地医輝連」が「地医輝連」を立ち上げ、地域の医療に貢献することを目的として、8月14日、学生に共感した蜂須賀連にも演舞場デビュー。

14日 蜂須賀連とデビュー

徳島大学総合診療医学分野の生サークル「地医輝連」は、地域の医療に貢献することを目的として、8月14日、学生に共感した蜂須賀連にも演舞場デビュー。

蜂須賀連の囃子物に合わせて阿波踊りの練習をする地医輝連の連員一徳島市内の城西中学校

地医輝連は、生3年・前回の阿波踊り連の経験を活かして、地域の医療に貢献することを目的として、8月14日、学生に共感した蜂須賀連にも演舞場デビュー。

次代へ



★6 「報告「平成 25 年度徳島県夏期地域医療研修」

徳島県研究会 鎌村好孝（徳島県健康増進課、徳島県立中央病院地域医療科）

今年も、先に報告のありました、日本の夏の大祭典の一つ「阿波踊り」が終わるやいなや、医学生
の地域医療研修が実施されました。毎夏、徳島県内の県南・県西部等の山間部や海岸部の地域におい
て、2泊3日の泊まり込みで、地域医療の最前線で活躍する先輩医師（その多くは、総合診療を実践
する医師）や医療・保健・介護の多職種及び地元行政の方々、そして何より地域住民の方々との直接
のふれあいが行われてきました。

今年も、8月22日～24日に、30人の医学生（今回は、自治医科大学、徳島大学、高知大学から）
が参加し、県南部の那賀町と海部郡、県西部の三好市の3地域に分かれて研修しました。各地域では
2～3名1組となり、それぞれの地域のへき地医療拠点病院、診療所、介護施設、町役場（市役所）ほ
か、様々な機関の多職種
の方々に指導いただきながら、
訪問診療・訪問看護・訪問
介護・新生児訪問等への同行、
診察・検査の見学、介護施
設・保育所などでの実習、そ
して、地元住民の方々に集ま
っていただき、健康教室を開
催したり、ほかにも様々なメ
ニューでの研修が行われま
した。さらには、その地域
（山・川・海など）を体感し
たり、地域の方々との交流会も行われる中で、医学生の皆さんも地域医療の醍醐味を、見て・聞いて・
感じてくれたことと思います。



飯泉嘉門徳島県知事を囲んで、医学生・指導医師

最終日午後には、徳島市内で全員が集合し、飯泉嘉門徳島県知事も出席のもと、全体報告会、そし
て全体交流会が開催されました（また、谷憲治徳島大学総合診療医学分野教授は、海部地域での研修
指導及び全体報告会・交流会に出席下さいました）。学生全員が研修報告をプレゼンする中で、「地域
住民と医師の関係がよくなると、地域医療も良い方向に向かう」「医師は地域の方々の温かさに支え
られている」「地域の医師と住民との距離の近さ・信頼感」「地域住民の顔が見える関係」「実際
に行ってみると、へき地医療のイメージが変わった」など、その貴重な体験を発表し、将来に向けての
地域医療への思い・夢を語ってくれた学生もいました。今後、この
学生時代の希望や思いを、徳島
県内でも将来実現できるよう、徳島
県地域医療支援センターも中心
となり、徳島大学や県内関係機関、行政も一層協力・連携して、推進していくことが期待されていま
す。また、来年の夏期地域医療研修も楽しみであります。（私自身は今年、残念ながら研修には参加
できませんでしたが、報告会・交流会に出席し、医学生の皆さんの希望に満ちた笑顔・発言に期待・
希望を寄せたところあります。）



全体報告会の様子